

DSC(示差走査熱量計) 操作方法

① 本体、パソコン、ワークステーションの電源を入れる。

② パソコン上で、ソフト立ち上げ。

- ・「TA-60WS 収集:モニタ」ウインドウを起動
- ・「操作」バー(図3参照)からDSC-50をクリック

③ サンプル作成

- ・アルミパンの中に試料を約3mgになるよう、細かく切り刻んで入れ、専用の封入機で蓋をする。



図2 試料室



図1 本体前面

④ 本体前面(図1参照)の「△:上へ」のボタンを押し、試料室を開ける。内蓋を取る。

⑤ 左がリファレンス。右がサンプル。先に作成したサンプルを右側へ乗せる。(図2参照) 内蓋を乗せる。

⑥ 本体前面(図1参照)の「▽:下へ」のボタンを押し、試料室を閉める。

⑦ パソコン上(図3参照)で「測定パラメータ」を設定する。

- ・温度プログラム Ex.)昇温温度 10°C、300°Cまで測定など
- ・ファイル情報

以上が設定できたら、「OK」を選択する。

⑧ パソコン上(図3参照)で「スタート P」をクリックすると、測定が開始する。(画面が青からピンクになる)

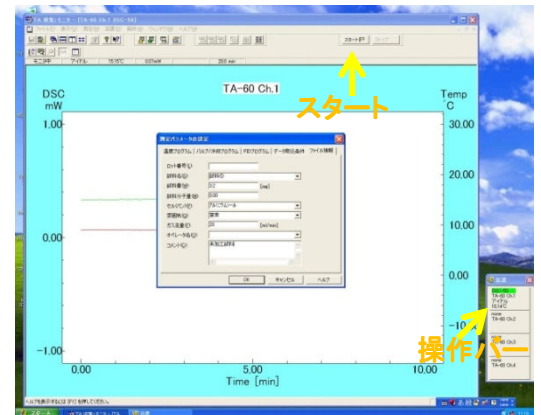


図3 収集:モニタ

⑨ 測定完了

⑩ 測定データの解析

- ・「TA60」のソフトを起動し、必要なデータ(ピーク温度など)を解析する。(図4参照)

⑪ 本体が十分冷えてから、本体、パソコン、ワークステーションの電源を切る。

注: 窒素ガスを使う場合は、終了時にガスの閉め忘れにご注意ください。

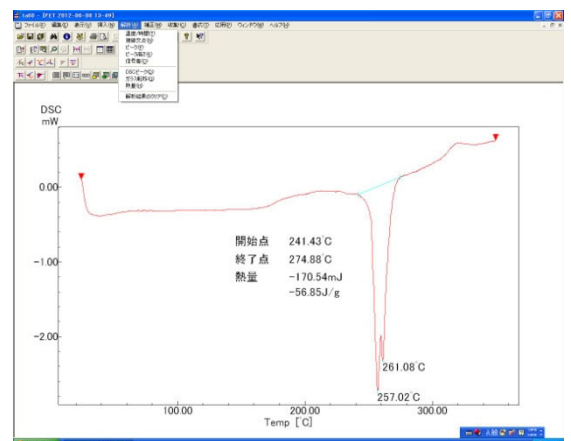


図4 測定データ解析